

中学校 第2学年 社会科（地理的分野）学習指導案

平成27年 12月 11日 金曜日 第4校時

2年 生徒数

指導者

1 単元名 第3章日本の諸地域

7～北海道地方自然環境を中心とした考察～（教育出版 P236～245）

2 単元観・キャリア観（キャリア教育の視点に関わる部分にアンダーライン）

（1）単元観

本単元は学習指導要領 地理的分野 内容（2）日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域 （ア） 自然環境を中心とした考察である。ここでは「日本をいくつかの地域に区分し、それぞれの地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して、日本の諸地域の地域的特色をとらえること」を主なねらいとし、具体的には北海道地方において「地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係を持っていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどを考える。」ことにより地域的特色をとらえさせる。

（2）生徒観

本学級の生徒は定期テストなどでは平均75ポイント以上を安定してとることができ、学習にも毎日の努力が成果として現れてきている。その中でも「知識・理解」の観点が比較的高く、「思考・判断・表現」といった観点に弱さがみられる。6名と少ないが、意欲も高く、真面目に落ち着いて授業に臨むことができる。反面、スピード・課題をやり遂げる力に大きく差があり、小学校から同じ集団で、表面上はスムーズに授業が進んでいるように見えるが課題に対して問題意識に欠ける生徒もあり、全体として学習が深まりきっていない。身近な課題に対しては意欲的に取り組み表現することができているので、できるだけ明確で分かりやすい課題を提示することで生徒の興味を引き出したい。また、深く物事を考えることのできる生徒をリーダーとして話し合い活動を設定し、思考力、判断力、表現力を育てていきたい。

（3）指導観

上分中学校では生徒に確かな学力の定着を図るため、「自分の考えを持ち、伝え合う活動ができる子どもの育成」を研究主題としている。そのために、社会科では導入時において提示する教材の工夫と問題解決学習の設定が必要であると考えている。生徒の授業への関心を高め、生徒主体の活動を促すためには、個人の活動だけでなく生徒同士がかかわる場面を創造し、相互に言語活動の充実を図ることも大切である。

本単元では北海道の位置と自然環境を大観し、主な都市と名称を理解することや十勝平野の畑作や根釧台地の酪農について自然的条件や社会的条件と関連づけて考えさせ、表現させたい。また、なぜ北洋漁業が減少し栽培漁業や養殖が拡大したか水産資源の保護と北洋漁業の課題について関心をもたせながら国際関係と関連させることも必要である。

積極的に挙手をして発言することが苦手な生徒もいるが導入の切り口を身近で新鮮なものにすることで生徒の興味・関心・意欲を引き出し、北海道の産業について自然的条件や歴史的背景の視点からとらえることで地理的な見方や考え方を培いたい。さらに、話し合いの中から新たな疑問点や課題を発見し、聞き手や話し手を意識した言葉や態度を意識させることで全体で討議を深め、学習が定着することを期待し指導していく。

3 単元の指導目標

- 北海道地方について
 - ・北海道地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究する。
 - ・北海道地方の地域的特色を、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
 - ・北海道地方の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
 - ・北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解する。
- キャリア教育視点で付けたい力
 - ・北海道の産業について自然的条件や歴史的背景の視点から考察することができる。【 課題対応能力 】
 - ・今日までの学習をふり返り、これからの日本の農業について考察し、表現することができる。【 課題対応能力 】
 - ・話し合い活動の中で相手の意見をしっかりと聞き相手にわかりやすく説明することができる。【 人間形成・社会形成能力 】

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
北海道地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	北海道地方の地域的特色を、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	北海道地方の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

5 指導と評価の計画（全 6 時間）

時	学習のねらい	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象 についての 知識・理解
1	北海道の位置と自然環境を大観し、主な都市と名称に関心を持つ。	北海道の環境に対する関心を高め、それを中心として北海道地方の特色について意欲的に調べようとしている。			
2	亜寒帯に属する北海道の気候とそれに対応した人々の暮らしの特色についてグラフや資料からを読み取ることができる。			「北海道の日照時間と一日の最高気温の分布」「北海道各地の気温と降水量」から日本海側と太平洋側の特色を読み取っている。	

3 (本時)	北海道の農業の特色について自然条件や社会的条件に関連づけて考察し、表現できる。		・北海道の農業の特徴について自然的条件や社会的条件に関連づけて考察し、表現している。		
4	北洋漁業における漁獲制限や栽培漁業や養殖の拡大について理解する。				北洋漁業に代表される「とる漁業」がいきづまった理由や、北海道の栽培漁業や養殖の拡大傾向について理解している。
5	北海道の豊かな自然を生かした観光産業と地域の活性化、また、火山による災害も予想されるため防災との関連について関心を持つ。	・北海道の自然環境を生かした観光の特色や防災について、追究しようとしている。			
6	今まで学んできたことをふり返し、日本の農業のあり方を考察し、表現することができる。		北海道や日本の諸地域で学んだことをふり返し、これからの日本の農業のあり方を考察し、表現している。		

6 本時の指導 (3/6)

(1) 目標・評価規準・評価方法

本時の目標	○☆北海道の農業の特色について自然的条件や社会的条件に関連づけて考察し、表現することができる。 ☆他者の話をしっかり聞き、自分の意見を発表できる。
本時の評価規準	・北海道の農業の特色について自然的条件や社会的条件に関連づけて考察し、表現している。(思考・判断・表現)
評価方法	ワークシート 観察 (話し合いの様子・発表)
準備物	電子黒板 ワークシート フリップ

(2) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点 ○…教科等の留意事項 ☆…キャリア教育視点での 留意事項	*評価規準・(評価方法)
導入 (つかむ) 10分	1. 食料自給率について確認する。 ・グラフから食料自給率の低さをつかみ、日本の農産物の生産について将来を考える。 ・北海道で生産量が高いものを調べ、発表する。	○日常の食事から、農産物の国内産の割合（食料自給率）を提示する。電子黒板と食料自給率の資料から、食料について外国産の農産物が多いことをつかませる。	
	「北海道はどのようにして日本の食糧基地となったのだろうか？」 (目標 : 北海道の農業の特徴について自然的条件や社会的条件に関連づけて考える。)		
	予想をワークシートに書く		
展開 (調べる・深める) 30分	2. 北海道の農業の特徴について考察する。 話し合い(7分) 発表(3分) 班で仮説を立てる。 ・予想される生徒の反応 ・広い耕地面積、大型機械、農業技術の工夫、自然環境に応じた農業の工夫など ・検討 全員で考え、意見をまとめる。(15分) ・厳しい自然条件をどのように克服したのだろう。 ・なぜ稲作・畑作・酪農の盛んな地域に分かれているのだろう。	○グラフや写真から特徴を読みとる。 ○広い耕地面積、大型機械の使用などの特徴をつかませる。 (大規模農業経営) ○☆(冷帯・火山灰地・流氷・海霧)などに関連づけて、決して恵まれた自然条件でないことを考察させ、環境に応じて品種改良や農業技術の工夫があったことをつかませる。 ○グラフから気候により石狩平野の稲作、十勝平野の畑作、根釧台地の酪農が盛んなことをつかませる。 ☆相手の話をしっかり聞き、分かりやすい発表をさせる。	・北海道の農業の特色について自然的条件や社会的条件に関連づけて考察し、表現している。(思考・判断・表現) (評価方法・観察・ワークシート)

	学 習 活 動	指導上の留意点 ○・・・教科の留意事項 ☆・・・キャリア教育視点での留意事項	*評価規準・(評価方法)
	3. 北海道の農業について課題を考える。 (5分)	○後継者の不足、減反政策、輸入品との競争をとらえさせる	
まとめ (振り返り) 10分	4. まとめ ・本時の目標に対するまとめをする。		
	振り返り ・予想と比べてどうだったかを振り返る。 ・今日の振り返りを発表する。	○予想とどこが同じで、どこが違うか、また新しく発見できたことを考えさせ、学習の定着につなげる。	

日本の食糧基地として

自国で食べるものを自国で生産する割合

食料自給率



先進国の中では **低い**
39%

目標 「北海道はどのようにして日本の食糧基地となったのだろうか？」
その要因について考え、発表する。



広い農地

大型機械

冷帯・泥炭地・火山灰地・海霧
厳しい自然環境を克服するために

品種改良・土壌改良・輸送技術の進歩（人々の絶え間のない努力）
自然環境に応じた農業 石狩平野 稲作 十勝平野の畑作 根釧台地 酪農

北海道の農業の特徴

主な農産物

てんさい あずき じゃがいも
たまねぎ にんじん だいこん
生乳 米 だいず かぼちゃ

課題

まとめ 広い農地を開拓し大型機械を使用して、大規模経営を行った。また、厳しい自然環境を克服するために気候に応じた作物を栽培し、長年にわたって品種改良や土壌改良がおこなわれたため多くの農産物を生産できるようになった。

後継者不足 輸入品との競争 減反政策

ワークシート

名前

北海道の主な農産物

--

個人の予想

--

北海道の農業の盛んな理由

--

課題は何だろう。

--

まとめ

--

ふりかえり

--